

特集にあたって

上田 徹 (成蹊大学)

本年5月に行われました第18回 FMES・研連シンポジウム「はじまった JABEE 審査—経営工学関連分野における取組—」には多くの方が関心を寄せられたことと存じます。その講演内容を広く知ってもらいたいと思っておりましたところ、日本経営工学会誌でその講演者による JABEE 特集を組まれるということをお聞きし、「オペレーションズ・リサーチ」誌への転

載を日本経営工学会誌編集委員会にお願いしましたところ快諾をいただきました。そのお陰で、日本経営工学会ばかりでなく、日本 OR 学会、品質管理学会の学会誌でも掲載できることとなりました。そのため、通常の「特集にあたって」は割愛させていただいて、事情のみを説明させていただきました。

モノづくり再興 —JABEE 審査への期待—

太田 宏

1. はじめに

平成14年5月17日に青山学院大学において、「はじまった JABEE 審査—経営工学関連分野における取組」というテーマで第18回 FMES・研連シンポジウムが開催された。そこでは FMES (Japan Federation of Managerial Engineering Societies)/JABEE (Japan Accreditation Board of Engineering Education) 委員会が平成13年12月に実施した早稲田大学理工学部経営システム工学科と鳥取大学工学部社会開発システム工学科の試行審査について、二つの大学の状況を審査長および大学側のプログラム責任者が体験に基づき報告されるとともに、アメリカでの審査状況や JABEE の今後の取組み、技術士資格との関連についての報告もあり、極めて有意義な内容のものであった。その詳細については当日のシンポジウム資料および本誌の特集記事を参照していただくとして、本稿ではわが国において低落気味であるモノづくりの再興の視点から JABEE 審査への期待について述べる。

2. モノづくり再興の要件

なぜ、日本の製造業に低落の兆候が現れたのだろうか。この原因はいろいろあろうが、その一つに若者の技術からの離脱現象があげられる。戦後の経済復興を支えてきた「技術立国」というスローガンは、国民的共通の理解を得て、技術者への願望は1970年代までは極めて高かった。しかし、1980年を過ぎるころから、若者の目は技術から離れはじめた。そして、バブル崩壊以後の企業のレイオフと就労環境の変化は、この若者の技術離れ現象をますます増幅しはじめ、製造業の低落の兆しが見られるようになった。さらに近年、モノづくりの拠点が中国へ移転しつつあり、いわばモノづくりの第2次空洞化時代を迎えている。労賃が安いということが主体で始まった第1次空洞化は、その後現地での部品調達の高コスト等の理由で、ある程度おさまったが、今回はいささか状況が異なるもののである。このような状況下で、製造業を再興させるためには、まずは若者に対してモノづくりの楽しさと価値の意識を与えるとともに、日本にしかできない高度なモノづくりを推進していく必要性があり、とりわけ「質が高い技術者」を数多く養成する教育が不可欠である。

おおた ひろし
大阪府立大学 大学院工学研究科
〒599-8531 堺市学園町 1-1